

## 【RL-Monitor 操作マニュアル】

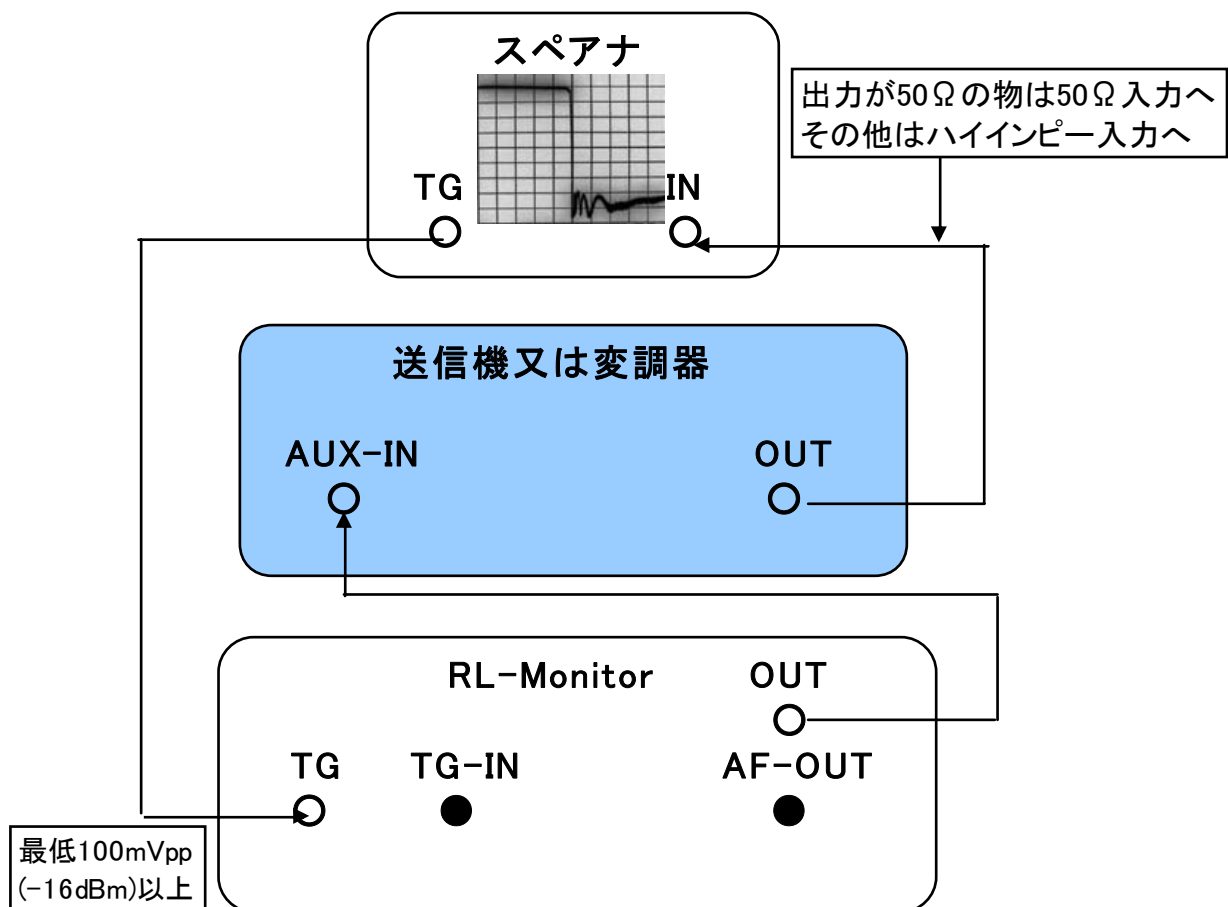
### 1. 電源投入時の初期状態。



### 2. 数秒上記表示後に、下記TX-MODEで立ち上がります。周波数=455KHz



TX-MODEでの使用構成。



TX-MODEは、送信機系の逆サイド特性を測定する時に使用するモードで、上記構成で使います。例えば周波数=455KHzの場合は、スペアナの中心周波数=送信機又は変調器の周波数=455KHzにします。スペアナのSPANは、IN-BAND幅=2.5KHz 逆サイド幅=2.5KHz位の SPAN=5KHz位が妥当です。分解能=30Hz位？

TG入力のレベルが最適レベルとなるように、'TG-IN' ボリュームによって下記表示となるように、セットします。



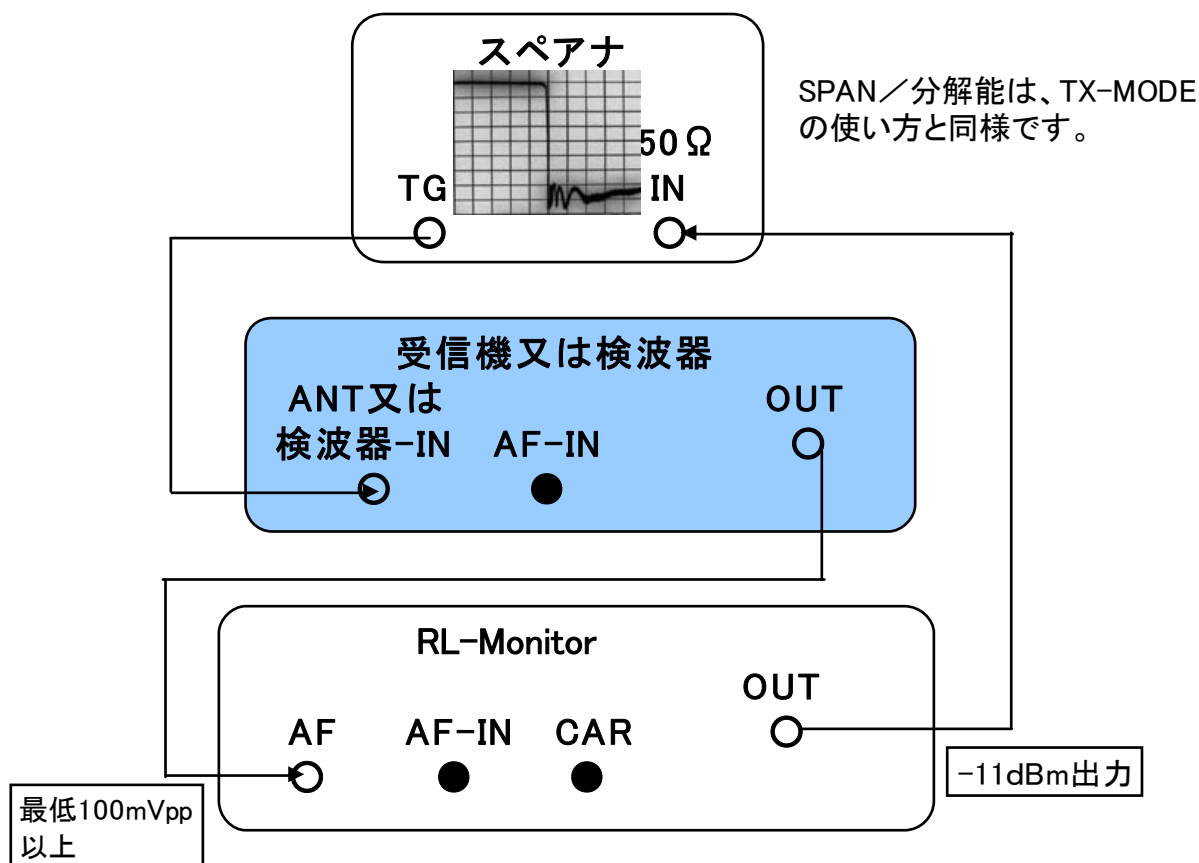
このマークとなるように、TG-INボリュームをセットする。(ミキサーの最適レベル)

RL-Monitorの出力は、被測定物(送信機／変調器)の音声入力へ接続しますがこのレベルは、被測定物に対して最適レベルとなるように、AF-OUTボリュームでセットします。リミッターアンプ等を経由していれば、10dB位制限されるレベルが妥当と思います。

送信機単体を測定する場合は、3.5MHzバンドで測定します。逆サイド特性は、バンド依存はありませんので、一番下のバンドで行います。

### 3. 'MOD' キーを押すと、RX-MODEとなります。

RX-MODEでの使用構成。



RX-MODEの場合は、受信系の逆サイドを測定する時に使用するモードで、上記構成で使用します。

- ① 事前準備として、RL-Monitorのキャリアヌル調整。
  - ・ 'CAR' キーを押して、キャリア調整モードにする。



- ・ AF入力 of 接続を外し、AF-INボリュームを左一杯にし、周波数=455KHzを例にすると、スペアナの中心周波数=455KHzにし、このポイントのキャリアが最少となるように、'CAR' エンコーダーを廻し調整する。

② 'CAR' キーを押して、RX-MODEに戻す。



③ **TG出力のレベル調整。**

Sメーターで、S=9+30dB振れる程度にANT端子へ入力する。このモードでは動作測定内で、AGC動作が動いてはなりません、その後ANT端子を外し受信機のRF-Gainボリュームを左に廻し、S=9+30dB以上のレベルにセットする、こうしておく測定動作範囲内において、S=9+30dB以上となることなく（AGCが動作することなく）測定出来ます。検波器単体を測定する場合はAGCとは無関係であるため、検波器の最適レベルにセットして下さい。

④ RL-MonitorのAF-INボリューム調整

受信機の音声出力を、RL-MonitorのAFに入力しますが、TX-MODEと同様にAF-INボリュームで最適レベルにセットします。



このマークとなるように、AF-INボリュームをセットする。（バラモジの最適レベル）

4. 更に' MOD' キーを押すと、SG-MODEになります。



SGとして動作します。' 10' キーにより任意の周波数を入力し、Hz/KHz/MHzキーのいずれかで、周波数Fixされます。出力端子からは50Ω出力で、0dBmレベルで出力されます。

入力周波数は、30MHz以下で、30MHz以上を入力すると' ERROR' となります。

